

平成 27 年度

地域医療学講座

年報

— 第 7 号 —



愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座
〒791-0295 愛媛県東温市志津川
(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

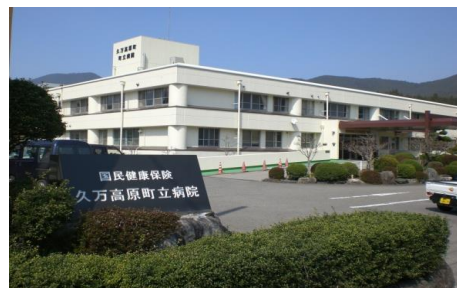


西予市立野村病院

〒797-1212

愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地

TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938



久万高原町立病院

〒791-1201

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地

TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

目 次

● 地域医療学講座の使命と取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 教授 川本 龍一	1
● 西予市立野村サテライトセンターこの1年間の活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 助教 二宮 大輔	2
● 学外講師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
● 地域医療教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・	6
● 第5回中四国地域医療フォーラム・・・・・・・・	8
● 第15回愛媛プライマリ・ケア研究会・・・・・・・・	9
● 愛媛県主催医学生サマーセミナー・・・・・・・・	11
● 総合診療科（地域医療学）専門研修案内・・・・・・・・	12
● 初期研修・後期研修・・・・・・・・・・・・・・・・	14
● 愛媛大学附属病院総合診療科開設について・・・・・・・・	17
● 平成27年度 地域医療学講義日程・・・・・・・・	18
● 平成27年度 地域医療ワークショップ（地域枠学生対象）・・・・・・・・	19
● 基礎配属学生の研究成果・・・・・・・・・・・・・・・・	20
● 第5学年臨床実習 地域医療学 班別名簿・・・・・・・・	21
● 業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
● その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
● マスコミ取材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35

地域医療学講座の使命と取り組み

地域医療学講座 教授 川本 龍一

本年もこれまでと同様に関係者各位、サテライトセンター設置自治体・職員、地域住民の皆様のご協力を頂き、様々な取り組みを進めることが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。現在、丸7年間の活動を終え、8年目に突入しています。今回、ここ3年間の活動を報告いたします。

本講座では久万高原町立病院と西予市立野村病院に設けられた2ヶ所のサテライトセンターにて実習や研修を行っています。毎年5月の連休明けから5年生全員の实習を開始し、9月には1年生地域枠の実習も担当しています。学生は各病院に3名ずつ割り当てられ、月曜日から金曜日にかけて泊り込みでの実習を行っています。2年前より済生会松山病院の協力により済生丸による離島診療も実習として行っています。その他、平成27年度からは基礎配属として地域医療を希望する当時2年生5名と6年生3名が実習と研究活動に励んできました。彼らは地域医療の現場で患者に触れるとともに地域医療ならではの調査研究を行い、日本プライマリ・ケア学会や日本老年医学会で発表してきました。6年生は研究結果を論文にまで仕上げ、いずれの論文も優秀論文として推薦されました。

診療支援では、地域における保健・医療・福祉の輪の中で地域住民を支える多職種連携のネットワーク作りにも協力し発展させています。予防事業で地域住民に対して働きかけをし、病気にならないようにする仕組みづくりも重要です。元気な高齢者を増やしていくことにより将来的な医療費の削減および街全体の活性化に繋がることが期待されます。もう一つ、地域に対する働きかけとして、虚弱高齢者が集まる生きがいデイサービスの場を利用して、最期をどのように過ごしたいかを各人が真剣に考えるよう促す「豊かな死」に関する教育にも取り組んでいます。

地域医療支援活動では、地域医療学講座のメンバーがサテライトセンターで外来診療や当直などの診療支援を行っています。また両病院はサテライト化により大学からの研修医が徐々にではありますが増えており、初期研修では愛媛大学病院、愛媛県立中央病院、松山赤十字病院、済生会松山病院、松山市民病院、自治医科大学病院などから毎月1~2名が訪れ研修を受けています。一方、後期研修である地域医療専門研修ではこれまで同様に毎年1~2名が各サテライトセンターにて研修を受けています。

地域医療学講座では、動脈硬化性疾患の危険因子に関する多くの論文を発表してきました。科研費では、学生の地域指向性を測る尺度の開発も行っています。今後も地域でのリサーチを推進し地域医療に貢献できればと思います。

この3つの大きな目標の実現を通して愛媛の地域医療に微力ながら貢献してまいります。これからも教育・診療・研究と様々な事業で皆様からのご支援をお願いすると存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

西予市野村サテライトセンターこの1年間の活動

地域医療学講座 助教 二宮 大輔

「おはようございます、朝の7時になりますよ。」

時刻は午前6時50分頃、西予市立野村病院での朝回診の日常風景です。入院患者さんに高齢者の方が多いといえど皆さんまだお休みの方も多く、特に冬場ともなれば窓の外は真っ暗、入院という環境変化でただでさえ見当識が失われやすい患者さんへの配慮と起こしてごめんなさいという気持ちも込めて、こう声を掛けながら回診をすることが私の決まり文句となりました。平成26年4月に私が西予サテライトセンターへ赴任してから丸2年が経過し、野村病院での日常診療をご紹介しながらこの1年間の活動を振り返らせて頂こうと思います。

さて、冒頭の回診風景は野村病院では名物ともなっています早朝回診の一コマです。週末を除いて午前6時半から内科病棟にて各チームでショートカンファレンスを行った後に、研修医・医学生を引き連れて回診をしていきます。歴史は古く、18年前に私が学生実習で初めて野村病院でお世話になった際にも当時副院長であった川本教授が行っており、お一人でされていた時期には6時、5時半と徐々にエスカレートしていたそうですが、参加人数が増えるに従って現在の時刻に落ち着いたという経緯があります。研修医・医学生にも野村病院の印象を聞くと朝が早いという返答があり、研修・実習前にはマイナスポイントに挙がることが多いのですが研修・実習後にはプラスポイントに変わっていることが多い気がします。確かに、研修医だけでなく医学生たちもこの1年間で体調不良を除いての遅刻・欠席者は私の把握しうるなかではほぼいなかったと思い、学生実習の際に2日連続で寝坊した私と違い皆さんの意識の高さには感心しています。ちなみに、医学生の朝回診は自主参加の形式となっており、学生実習のオリエンテーションでも「よければ参加して下さい」という表現に留めているのですが、きちんと来てくれる医学生のやる気は素晴らしいと思いながらも、名物になっているので自主参加があまり知られていないだけのようにも思います。私自身も2年間続けると生活リズムが慣れるもので、起床時間も当初の6時20分から6時、5時半、5時と徐々に早まっています。地域研修で1か月ごとに来てくれる研修医にも当初は毎朝大変ですねと言われるのですが、慣れてくると苦にならないことと自分の1日の仕事が2時間ほど前にシフトする感覚なので、逆に終わるのも早くなります。また、患者さんの状態把握を早くできるのはもちろんですが、我々の指示で動いてくれる病院スタッフの仕事も早く始めることができ、病院全体の仕事効率が良くなります。あと、規則正しい生活で少し痩せました。良い点ばかり挙げていましたが難点を挙げるとすれば、一人で継続するのはつらいというところでしょうか。どんなに素晴らしいシステムであっても、一人で続けていくのは気の緩みや甘えが必ずあるもので、一緒に回診する仲間が増えているからこそ継続できるのではないかと思います。

さて、西予市立野村病院にて一般内科医として勤務する傍らで、学生実習指導・初期研修医教育・大学での講義などを受け持たせて頂いております。特に、医学部3年生の講義では地域医療をなるべく体感できるような、もしくは5年生での地域医療実習に向けて学生の学びのきっかけになるような講義を心掛けております。加えて、平成28年3月からは愛媛大学附属病院総合診療科も開設され外来も担当させて頂いており、大学病院という総合病院のなかでの病院総合医としての立ち位置の難しさも改めて感じております。

これからの地域医療は僻地医療のみならず都市部での高齢化進行に伴って日本全体の喫緊の課題として、専攻診療科に限らず全ての学生に理解と問題意識を持ってもらいたいと考えています。また、僻地での地域医療についても個人の犠牲の上に成り立つものではなく、今後も持続可能なシステムとしての医療と為りえるためにもその裾野を広げられるように学生教育に取り組みたいです。

今までの赴任先での経験とこれまでご指導頂いた先生方とのつながりを活用して、愛媛県の地域医療の発展に微力ながら尽力したいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

学外講師

家庭によるタバコフリー活動（2015年10月22日、東温市）

かとう内科クリニック 院長 加藤正隆 先生

今回も禁煙の歌から始まりました。授業で音楽が流れることは余りありません。たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、その害と影響の大きさについて、その発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講演していただきました。全身を禁煙グッズで包み講演する姿に先生の熱意と熱い息込みが感じられます。



高齢者医療と福祉—求められる医師像—（2015年11月5日、東温市）

綾川町国民保健陶病院 院長 大原昌樹 先生

大原昌樹先生が地域の第一線で取り組んでいる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて具体的な事例を交えながらわかりやすく解説していただきました。今回の講演では、地域で活躍する様々な職種、医師、看護師、ケアマネジャー、サービス業者、住民、業者についてその役割も説明していただきました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性。老健や特養施設の役割、在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんとの交流をとおして地域で活動することの喜びや遣り甲斐などについてもお話いただきました。



地域医療における病院運営と高齢者ケア（2015年11月19日、東温市）

済生会松山病院 院長 宮岡弘明 先生

済生会松山病院での幅広い取り組みについてご紹介いただきました。高齢化が進むなか、多職種を巻き込んだチーム医療について多くの事例を交えたお話でした。高齢者の死因として最も多い肺炎、特に誤嚥性肺炎についての多職種での取り組みは、目を見張るものがあります。離島医療についても定期的に取り組み、離島：釣島や八幡浜市大島での健康教室活動、宇和島市嘉島での出張診療をご紹介いただきました。救急医療については松山の輪番制の中で8日に1回の救急を担当し、時には何十台もの救急車がくる現状をお話しされました。一方、地域での健康活動も実施されており、予防への取り組みとして生活習慣病やスポーツ障害予防も実施されているということです。さらには地域医療



を担う医師養成として、**generalist** の **mind** を持った **specialist** を養成する取り組み。ER 中心の病院（忙しすぎる）とじっくり学ぶ病院（救急対応が今ひとつ）とのメリットを生かしたローテート方式についてご紹介いただきました。現在は後期研修医が残り、屋根瓦方式の研修が可能になっている現状は素晴らしいと思われます。

地域医療における心のケア（2015 年 12 月 10 日、東温市）

愛媛県立中央病院総合研修センター長 山岡傳一朗 先生

今回も、中島産のミカンを用いて、代表の学生が問診を行いました。病期の流れの中で過去から未来へ、問診と観察、さらには推察の重要性について、山岡先生ならではのユニークな講義でした。また、日本における鍼灸や東洋医学の歴史を交えながら、さらには鍼の使用も実習しながら、鍼の目になったつもりで刺入を計る技を伝授いただきました。学生は、全員が中央に集められ、多少緊張感のある雰囲気の中での楽しい授業でした。先生のお話はどれもが歴史を交えた味わいと重みのある内容で、患者さんに対する場合には必ず余裕を持って、相手に不安を与えないことの重要性についてもわかりやすく解説されました。



「地域医療における臨床研究の実践」（2015 年 1 月 13 日、東温市）

帝京大学ちば総合医療センター地域医療学講座教授 井上和男 先生

3 年生を対象に 2 時間にわたる講義が行われました。ご自身の地域での研究結果を示しながら、地域ならではの研究を行うアイデアや手法について話されました。教室いっぱい歩きながら学生の興味を引き出す教育手法は、教員としてもとても勉強になりました。



「バングラデシュでの医療活動」（2015 年 1 月 21 日、東温市）

松山ベテル病院内科部長 宮川眞一 先生

先生は、神学部を卒業された後に改めて医学を目指され、卒業後バングラデシュのキリスト教系の医療施設で地域医療活動を 7 年にわたり行ってこられたという方です。国全体が発展途上国に特有の貧富の差の大きい国であり、富裕層は先進国並みの医療が提供され、貧困層にはそれが十分行き届かない中、感染症撲滅のための環境改善に取り組んでこられたお話は、国際貢献・医療活動を志す者に勿論のこと、一般学生にとっても勉強になる内容でした。



地域医療教育活動

第14回愛媛プライマリ・ケア研究会（2015年6月27日、松山市）

今回も例年にまして一般演題および特別講演は、夏の暑さを吹き飛ばすような熱のこもった内容であったと思います。

特別講演には、自治医科大学地域医療学センター総合診療部門教授の松村正巳先生をお招きして、「実地医家のための臨床推論—診断とプロセスのエラー—」と題して御講演をしていただきました。先生は石川県出身であり、昭和61年自治医科大学卒業後、石川県内の診療に従事されていた方です。実地臨床に即した臨床推論の醍醐味を存分に感じさせられる内容でした。「最低限の検査機器しかないような現場で最大限に患者の問題を正しく診断する」ヒントが得られたと思います。



第1回しまなみ海道臨床推論道場（2015年7月19-20日、尾道市～今治市～松山市）

今回、学生主催のしまなみ海道臨床推論道場を開催しました。歴史的にも魅力ある尾道から瀬戸内海の島々を巡りながらのワークショップでした。尾道の真言宗浄土寺では問診クエストを亀田総合病院感染症科佐田先生の指導により、4つに分かれた各グループにおいて上級学生がファシリテーターとして症例を提示し、参加者が問診していくというものでした。患者さんの history を的確に聞き出し、医学用語に変換し、要点を一文にしてわかりやすく他者に報告するというカンファレンスでの妙技を学び、問診で診断の8割が可能となる所以、問診の重要性を学びました。その後、耕三寺に移動し、お寺の講堂にて徳洲会奄美ブロック総合診療研修センターの平島先生によるフィジカルクラブが行われました。先生は胸部内臓をプリントしたTシャツと競技用スーツで登場し、聖闘士星也とコスモの話を変えながら、身体診察の重要性について実技実習を変えながらの講演はユニークで個性あふれるもので、今回は胸部打診で胸水の貯留を見分けるというものでした。

その後、村上水軍博物館に移動、今回のメインイベントであるJCHOの徳田安春先生による臨床推論におけるエラーについて症例を変えながらのワークショップを実施、様々な段階でのエラーが生じることを常に考えながら診断・治療することの重要性について学びました。夜の懇親会では学生同士、教員と学生との交流が行われ、瀬戸内で獲れた海の幸を味わいながら楽しい会となりました。



翌日は、学生中心に昨日学んだことについての復習が、新たな症例を交えながら行われました。二日間にわたるワークショップでしたが、演者からも地域の魅力を観光しつつ医療を学ぶワークショップは全国でもこれまでにない試みとして絶賛されました。愛媛大学医学部と京都府立医科大学の学生、さらに全国各地から駆けつけていただいた魅力ある講師陣の先生方には心よりお礼申し上げます。講座としては、次年度も支援していきたいと考えています。

2015年度愛媛県医学生サマーセミナー（2015年8月22日、松山市）

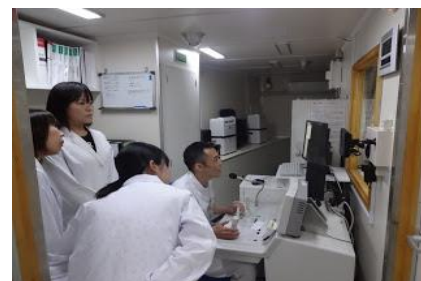
今回は、各市町村よりその地域の魅力と課題を担当者からご講演いただき、学生にはその地域の首長になったつもりで、まちづくりを構想、夢、貢献の観点から考えてもらいました。四国中央市、久万高原町、八幡浜市、愛南町といずれの市町も地域ならではの魅力があり、医師不足に対する取り組みにも頼もしさを感じました。

セミナーの後は地域医療医会が開催され、「2017年度から変わる専門医制度について」の講演が徳島文理大学副学長 千田彰一先生よりなされました。



診療船「済生丸」乗船ツアー（2015年8月20～24日、大洲市）

学生の離島実習を兼ねて済生丸診療船に乗船し、大洲市青島、長浜町沖の瀬戸内海に浮かぶ小島で実習を行いました。乗船する船は、診療船というだけあって診察室、心電図、超音波、X線装置などあらゆる設備が整っていました。猫が住民より多いのが特徴で、それを見に来る観光客も増えているそうです。



家庭医療ワークショップ（2015年12月5日、松山市）

各地域で家庭医療を目指す若い医師が、その魅力を学生に享受しました。高齢化社会、医療の専門分化の行き過ぎ、さらには検査への依存のなか、患者中心の医療とは何かを研修を通して経験した症例を交えながらわかりやすく説明されました。彼らの成長が楽しみであり、将来愛媛にもどられ、活動されるのが楽しみです。



第 5 回中四国地域医療フォーラム

【日 時】2015 年 3 月 6 日（金）午後 3 時～午後 6 時

【場 所】コンフォートホテル高知駅前

高知県高知市北本町 2 丁目 2-12

Tel 088-883-1441 Fax 088-884-3692

当番幹事 高知大学医学部家庭医療学講座

参 加 者 中四国各県の地域医療にかかわる大学関係者

プログラム

14：30 受付

15：00 開会あいさつ 高知大学医学部家庭医療学講座 阿波谷 敏英 先生

15：10 各大学からの報告「地域医療関連講座の現状と課題」

発表 10 分+質疑 5 分×8 大学

【日 時】2015 年 3 月 7 日（土）午前 9 時～午後 3 時

参 加 者 中四国各県の地域医療にかかわる大学関係者、県行政担当者、地域医療支援センター職員、地域卒学生など

プログラム

8：30 受付

9：00 開会あいさつ 高知地域医療支援センター長 相良 祐輔 先生

9：10 各大学からの報告「地域卒学生の教育と卒業後のキャリアパス」

発表 10 分+質疑 5 分

①鳥取大学 ②島根大学 ③岡山大学 ④広島大学

⑤山口大学 ⑥徳島大学 ⑦愛媛大学 ⑧高知大学

11：30 ワークショップⅠ 学部教育/学生支援

討論 60 分 発表 2 分、質疑 2 分 × 5 グループ

学生ワークショップ 地域卒学生の思い

休憩 20 分（昼食）

13：10 ワークショップⅡ 卒業後キャリアパス

討論 60 分 発表 2 分、質疑 2 分 × 5 グループ

14：30 学生発表

14：55 まとめ

15：00 閉会あいさつ 高知県健康福祉部長 山本 治 氏

第15回愛媛プライマリ・ケア研究会

【日 時】2015年6月27日（土） 16:00～

【場 所】リジェール松山 8F 「クリスタルホール」

松山市南堀端2-3（JA愛媛8F） TEL 089-948-5631

開会挨拶：済生会松山病院 宮岡 弘明 先生



16:00～16:30

＜地域医療活動・学生活動＞

座長：愛媛県立中央病院総合診療部 杉山 圭三 先生

1. 「えひめ多職種連携ワークショップの報告」

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座 基礎配属学生（医学科6年）*

上本明日香*、鈴木萌子*、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

2. 「地方医療従事者の身体的・精神的健康と関連する要因に関する調査」

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座 基礎配属学生（医学科2年）

本田遼佑*、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

3. 「西予市立野村病院における医師と患者間のコミュニケーションに対する意識の差に関する調査」

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座 基礎配属学生（医学科2年）*

原諒真*、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

16:30～17:00

＜臨床研究＞

座長：愛媛十全医療学院附属病院 高原 完祐 先生

4. 「総合診療科外来を受診する発熱患者の検討：年間初診患者約5000例の解析から」

愛媛県立中央病院 総合診療科¹⁾、漢方内科²⁾

村上晃司¹⁾、清水元気^{1) 2)}、角藤裕^{1) 2)}、明坂和幸¹⁾、杉山圭三¹⁾、玉木みずね¹⁾、
山岡傳一郎^{1) 2)}、西山誠一¹⁾、北出公洋¹⁾

5. 「当院におけるサルコペニアと誤嚥性肺炎の予後の検討」

済生会松山病院内科 臨床研修センター*

長谷川緑*、多田藤政、玉井惇一郎、白石佳奈、砂金光太郎、北畑翔吾、宮本裕也、青野通子、清水嵩之、海老沢里衣子、堀和子、梅岡二美、村上英広、沖田俊司、宮岡弘明、岡田武志

17:00～17:05

事務連絡：愛媛大学大学院 地域医療学講座 熊木 天児

17:05～17:15 休憩

17:15～18:00

【特別講演Ⅰ】

座長：愛媛大学大学院地域医療学講座 熊木 天児

「東日本大震災、福島第一原発事故に直面した災害拠点病院の実態」

中部労災病院/名古屋大学病院 脳神経外科

(前南相馬市立総合病院 脳神経外科 救急部)

太田 圭祐 先生



18:00～19:00

【特別講演Ⅱ】

座長：愛媛大学大学院 地域医療学講座 川本 龍一

「実地医家のための臨床推論～診断のプロセスとエラー～」

自治医科大学地域医療学センター 総合診療部門教授 松村 正巳 先生

閉会挨拶：愛媛大学大学院地域医療学講座 川本 龍一

19:15～ 意見交換会

顧問

恩地 森一 (済生会今治医療福祉センター)

日浅 陽一 (愛媛大学大学院消化器・内分泌・代謝内科学)

代表世話人

川本 龍一 (愛媛大学大学院地域医療学)

世話人

加藤 正隆 (かとうクリニック)

杉山 圭三 (愛媛県立中央病院)

高原 完祐 (愛媛十全医療学院附属病院)

松浦 文三 (愛媛大学大学院地域生活習慣病・内分泌学)

宮岡 弘明 (済生会松山病院)

村上 晃司 (愛媛県立中央病院)

山口 朋孝 (済生会今治病院)

山下 善正 (済生会今治第二病院)

事務局

熊木 天児 (愛媛大学大学院地域医療学)

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

TEL 089-960-5308 (地域医療学講座内)

愛媛県主催医学生サマーセミナー

【日 時】2015 年 8 月 22 日（土） 13 時 00 分～

【場 所】県庁第一別館 11 階会議室

13：00～13：05 開会挨拶 医療対策課長 山田 裕章 氏

司会 愛媛大学医学部地域医療支援センター 高橋 敏明 先生

《テーマ》

「県内市町の現状について」

《参加市町》（各市町 10 分程度）

・四国中央市 ・久万高原町 ・八幡浜市 ・愛南町

13：35～13：40 ワークショップの進め方の説明

進行 愛媛大学地域医療学講座 川本 龍一

13：45～15：50 ワークショップ

ワークショップ（140 分）

《テーマ》

「医療から見たまちづくり」

「各参加市町の医療とまち」

①1 回目の 20 分間...各市町の資産や課題を挙げていく

（医療分野に限らず、交通面や人口面、地形など様々な観点から）

②2 回目の 20 分間...①から連想される医療面での資産や課題を挙げていく

③3 回目の 20 分間...地域医療に対する自分の夢・構想・貢献などを挙げていく

④4 回目の 20 分間...①から③をもとにこれからの「医療から見たまちづくり」を考える
ファシリテーター：

愛媛十全医療学院附属病院	高原 完祐	(一班)
--------------	-------	------

愛媛県立中央病院	杉山 圭三	(二班)
----------	-------	------

愛媛県立中央病院	村上 晃司	(三班)
----------	-------	------

愛媛大学医学部地域医療学講座	二宮 大輔	(四班)
----------------	-------	------

愛媛大学医学部地域医療学講座	熊木 天児	(五班)
----------------	-------	------

愛媛大学医学部地域医療支援センター	長谷川 陽一	(一班)
-------------------	--------	------

愛媛大学医学部地域医療支援センター	高橋 敏明	(二班)
-------------------	-------	------

愛媛大学医学部地域医療支援センター	高田 清式	(三班)
-------------------	-------	------

愛媛県職員

16:10～16:30 討論発表

16:30～ 閉会挨拶 愛媛大学医学部地域医療支援センター 高田 清式 先生



総合診療科（地域医療学）

①総合診療科（地域医療学）講座の紹介

地域医療学講座は、平成 21 年 1 月 1 日、地域での教育・研究・診療を目的として愛媛県からの寄附講座として設立され、現在、西予市立野村病院および久万高原町立病院に講座の地域サテライトセンターを設け活動しています。地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しており、このような現状のなか地域における住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。本講座では、「地域に生き」、「地域で働く」医師を「地域を舞台に育てる」を合言葉に、地域に根付いた教育と研究、医療支援活動を行い、総合診療専門医の育成を目指しています。

②研修プログラムの目的と特徴

1. 主な研修場所は、地域における救急を含む一次、二次医療を担当する一般病院であり、紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診、入院を受け入れており、救急を含む common disease や common problem を十分に経験する機会を保障しています。
2. 臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修です。
3. 指導医も臓器別専門医として指導をするのではなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。患者の諸問題から出発して学習をすすめる問題指向型学習 Problem-based Learning を行いやすい環境を保障しています。
4. 研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。
5. いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり、地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。
6. 医師カンファレンスだけでなく各種コメディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行なっており、各種スタッフと協力して医療を行うチーム医療の姿勢を身に付けるのに適した環境を保障しています。
7. 学習環境の保証、教育法の工夫として、研修医が文献や各種二次資料の検索を行なえるコンピューターを配備し、問題解決のための自己学習や EBM を実践できる環境を保障しています。
8. より効果的な教育方法の開発に取り組み、マニュアル化し、研修に取り入れています。
9. 研修内容は研修医の到達度に応じてステップアップしていくシステムをとっており、患者にとって安全で、かつ研修医も安心して研修が受けられる環境を保障しています。
10. 精神的、身体的に健康で、経済的にも余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇、給料を保障しています。
11. 指導医の各種研修への参加保障など指導医養成 Faculty Development を重視しています。
12. 指導医が研修指導にあたる時間を確保するとともに、屋根瓦方式による指導体制をとることで、研修医が十分な指導を受けられる環境を保障しています。

研修の具体例

年数	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6～9 年
研修内容	初期臨床研修（2 年）		総合診療科・内科中心の研修（3 年）			自由研修（1～4 年）
研修施設	臨床研修病院		地域中核病院、地方病院 診療所			希望医療機関 地域中核病院、地方病院、診療所
資格			日本プライマリ・ケア連合学会認定医・ 家庭医療専門医 日本内科学会認定総合内科専門医			希望に応じた専門医

※当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け「総合診療科専門研修コース」、「家庭医養成愛プログラム」と臨床経験5年以降の「地域医療生涯研修コース」を用意しています。

※研修内容は、愛媛大学医学部総合臨床研修センターの支援のもと、本コース参加者と研修医療機関との話し合いで決定します。また、定期的に本コース参加医療機関指導医と研修参加者の研修会を開催し、研修の振り返りと研修内容の充実を計ります。

③経験目標

本コースは、地域医療を担う医師を養成するためのコースです。地域医療を担う医師には、一般的な疾患の診断と治療、慢性疾患の管理、急性疾患への対応のほか、訪問診療などの在宅医療や介護保険への関わり、健康診断、予防接種、健康増進と疾病予防、学校医や産業医活動など多岐にわたる対応が求められます。大学病院ならびに地域医療を学べる関連医療機関（愛媛県内外の施設を1～2年間）をローテートしながら、住民のニーズに応じた健康上の問題を中心とした保健・医療・福祉などのあらゆる地域における要望に対応する技能の修得を目標としています。当プログラムを修了した医師は、地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、幅広い分野の人々と協働できることを目標としています。

④指導医（講座構成員）

- ・川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、米国内科学会上級会員（Fellow））
- ・熊木天児（准教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会（支部評議員）総合内科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会（支部評議員）専門医・指導医、日本消化器病学会（全国評議員）専門医、日本肝臓学会（支部評議員）専門医、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- ・二宮大輔（助教：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会認定医）

⑤研修に関する行事

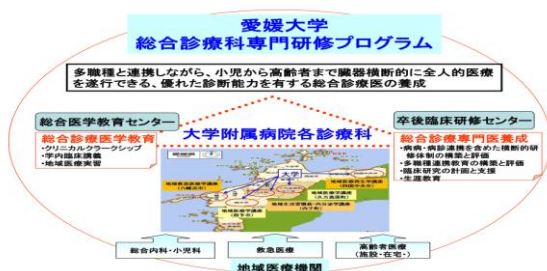
月曜日：抄録会、火曜日：病棟カンファレンス・褥瘡回診、水曜日：レ線カンファレンス・健康教室、木曜日：訪問カンファレンス、金曜日：病棟カンファレンス・総回診

⑥研修終了後について

個人の希望に応じて愛媛大学の関連病院で勤務あるいは大学院進学

⑦関連病院との連携

臨床コース：希望により、県内の教育病院で研修を積み、日本プライマリ・ケア連合学会や日本内科学会認定専門医取得後、さらに上の専門医取得を計ります。



総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱの主な連携病院

- <東予> 十全総合病院、済生会今治病院
- <中予> 愛媛県立中央病院、松山赤十字病院、松山市民病院、済生会松山病院、久万高原町立病院
- <南予> 西予市立西予市民病院、西予市立野村病院、JCHO 宇和島病院

⑧専門研修の問い合わせ先

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 愛媛大学医学部附属病院総合診療科（地域医療学講座）

初期研修・後期研修

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えています。

初期臨床研修 2 年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：愛媛大学病院 3 名、松山赤十字病院 3 名、松山市民病院 1 名、自治医科大学病院 9 名

地域医療実習 1 ヶ月

西予市地域サテライトセンター：川崎医科大学医学部 6 年生

後期臨床研修（家庭医養成愛プログラム所属）4 年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：愛媛大学医学部卒業 1 名

初期臨床研修 2 年目の地域医療研修の感想

武智研修医（2015/1/5～30）

一ヶ月間という短い期間でしたが、研修はもちろん充実していましたし、野村町の方々と触れ合うことができ、とても良かったです。地域における診療所や中核病院の重要性を学びました。また、患者さん個々の ADL や全身状態をみながら、今後を見据えつつ一つ一つの治療を決めており、非常に勉強になりました。

今回の経験を糧にして、今後も頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

金子研修医（2015/4/13～5/1）

大学病院とは違い、より総合的に患者さんを診ることが必要であることを学びました。末期医療のあり方に触れ、これからの診療に自信ができました。様々な手技に触れさせていただき、また丁寧な指導をありがとうございました。短い期間でしたがお世話になりました。

上野研修医（2015/5/1～29）

往診や地区健診など、地域の方と接する機会が多くあり、地域性を理解できました。また、入院治療を行なっていく上で、退院後の生活も考慮し、様々な職種の方と連携をとる重要性を痛感しました。1 ヶ月間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

齋藤研修医（2015/5/11～6/3）

患者さんと地域の施設を取り巻く環境の中で医療がどのように行なわれているか、日々実感しながら研修に励めました。外来、検査、疾患など普段の大学病院での研修では得られない経験も多く、

大変勉強になりました。これまで度々訪れていた愛媛県でとても充実した地域研修を行なわせていただき、心より感謝いたします。南予で学んだことをこれからの日々の診療に活かしていこうと思います。

翁長研修医（2015/6/8～7/1）

一ヶ月間、病棟・外来・診療所などお世話になりました。地域の特性を大事にした病院の体制を理解させていただき、大変勉強になりました。スタッフのみなさんにも大変お世話になりました。いろいろとご指導いただきありがとうございました。これからもがんばります。

解良研修医（2015/7/6～29）

短い期間でしたが、大変お世話になりました。患者様やご家族のあたたかさに触れながら、病棟、外来、診療所、老健施設などで様々な経験をさせていただきました。指導医の下につき、いろいろな業務にご一緒させていただき、足りない部分は他の先生方が快くご指導いただきました。先生方、スタッフのみなさんに感謝申し上げると共に、こちらで得た経験を生かして成長していきたいと思っています。ありがとうございました。

友弘研修医（2015/6/1～8/31）

地域医療に実際に関わってみて、その責任の重さを実感させられました。外来や健診や手技的なものを含め、いろいろなことが学べました。大変良い経験になりました。今後活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

東野研修医（2015/9/3～30）

様々な経験ができ充実した、あっという間の一ヶ月でした。とても楽しく過ごせました。まだまだ未熟な身でしたので、いろいろご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。

周東研修医（2015/9/7～10/1）

大変短い期間でしたが、先生方はじめスタッフの方々、患者さん、みなさんの良い雰囲気の中で安心して充実した研修生活を送ることができました。地域の環境や家庭の状況で、医療で必要な事柄も異なってくると実感しました。この研修を無駄にしないようこれからも頑張りたいと思います。ありがとうございました。

大瀬戸研修医（2015/10/5～28）

一ヶ月間、ありがとうございました。最初は慣れない環境と寂しさがありましたが、すぐに先生方、スタッフのみなさんの温かい雰囲気のおかげで馴染むことができました。地域医療を間近に体験し、必要とされる医師の在り方や患者・家族・スタッフとの距離感の近さが学べました。大学に帰ってもコメディカルとの距離を深めようと思います。楽しい一ヶ月をありがとうございました。

泉研修医（2015/10/1～30）

地域では、数少ないスタッフで多くのことをカバーしなければならず、限られた検査で医療パフォーマンスを行うことの難しさを学びました。みなさんに優しく接していただき感謝しております。出身地が近いこともあり、より一層身近に野村を感じ、今回こちらで研修できて本当に良い経験になりました。ありがとうございました。

石川研修医（2015/11/2～26）

みなさんがとても優しくのびのびと研修させていただきました。大学病院の外の世界をみることができ、地域で働くということは患者さんだけでなく、その家族までを含めて診ることなのだとわかりました。大変得ることの多い一ヶ月となりました。ありがとうございました。

露口研修医（2015/11/2～30）

一ヶ月間、とても楽しい研修を送ることができました。地域での医療は、専門性よりも全般的にいろいろな視点から患者さんを観察する能力が必要だと感じました。いつか恩返しできるようこれからも精一杯がんばります。

山内研修医（2015/12/1～28）

今回の研修では、・地域医療における全般的スキルの重要性 ・患者さん、ご家族の意向などにあわせた治療強度の調節 など学びました。研修中は自由に質問でき。意見が反映されやりがいがありました。お世話になりました。

渡部研修医（2015/12/1～28）

一ヶ月間、お世話になりました。先生方はじめ、スタッフのみなさん、たくさんの方々と交流でき楽しかったです。早朝回診にも遅刻することなく参加でき、今後も早起きスタイルを継続したいと思います。ありがとうございました。

竹内研修医（2016/2/8～3/2）

施設への見学や往診、診療所業務をする機会が与えられていたため施設との関わり方や診療所のあり方を学ぶことができました。指導いただいた先生方には、時間を割いて指導していただきました。大変お世話になりました。

愛媛大学附属病院総合診療科開設について

地域医療学講座 教授 川本 龍一

2017 年度から専門医制度は大きく変わる。すなわち、18 領域ある基本領域の専門医を取得した上でサブスペシャルティ領域の専門医を取得するという 2 段階制になる。この際、基本領域には新たに総合診療医という専門医が設けられる。

我が国の総人口は 2014（平成 26）年 5 月 1 日現在、1 億 2,709 万人であり、少子化が進む中、65 歳以上の高齢者人口は過去最高の 3,257 万人（前年 3,149 万人）と総人口の 25.6%（前年 24.7%）を占めている。2015 年には「ベビーブーム世代」が 65 歳に到達し、その 10 年後には高齢者人口がピークの約 3500 万人、75 歳以上は 2000 万人の超高齢社会となる。ひとり暮らしや夫婦だけの高齢者世帯の急増、認知症高齢者の増加、高齢者多死時代の到来など多くの問題が地方ではすでに深刻化しているが、都市部においても今後深刻な問題となってくる。超高齢社会では、慢性疾患による複数の疾病を抱えるなどの特徴を持つ老齢期の患者がより多くなる。これからの時代の医療は、かつての「病院完結型」ではなく、病気と共存しながら Quality of Life の維持・向上を目指し、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し支える「地域完結型」へと進んでいく。そこで求められるのが「総合診療医」である。

総合診療医には、理念として①近接性 accessibility、②包括性 comprehensiveness、③継続性 continuity、④協調性 coordination、⑤責任性 accountability という 5 つの柱があげられ、患者の身近な立場で、患者を丸ごと、継続性を持って、多職種や領域別専門医と協力しながら最期まで支えていくことが求められる。「地域完結型」の医療体制の中で、地域によって異なるニーズに的確に対応できる「地域を診る医師」としての視点が不可欠であり、地域の高齢者や小児などに頻度が高く幅広い領域の疾病と傷害等について、適切な初期対応と必要に応じた継続医療を全人的に提供することが期待されており、領域別専門医の「深さ」に対して「広さと多様性」を持つことを特徴とする。さらに総合診療医の活動には、多様な医療サービスを包括的かつ柔軟に提供することが求められ、地域で増えつつある生活習慣病の予防活動も重要な役割とされている。

OECD（経済開発協力機構）でも「健康増進のための最も費用対効果が高い方法は、GP（総合診療医）によるプライマリ・ケアである」と述べているが、我が国には諸外国に比べて極めてその数が少ないことが問題視されている。そこで、総合診療活動を専門に行う医師を早い時期から系統立てたカリキュラムで養成していくことが喫緊の課題である。新規の専門分野として指導層が薄い中、その養成には現在地域で活躍している内科専門医の方々との関わりが重要なカギとなる。また、地域指向性を育てるため医学生に対する地域医療実習が増えているこの機会を生かし、「地域を診る」ことのできる総合診療医の視点を医学生のうちから養うことも、これからの高齢化社会に期待される医師の養成に必要である。

以上のことにより、愛媛大学医学部附属病院内に『総合診療科』が設置され、地域医療学講座が中心となって運営しております。今後ともご支援・ご指導をお願いします。

平成 27 年度 地域医療学講義日程

前期課程 場所：臨床第 2 講義室 10 コマ 3 時限：10:00－12:00

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
6 月 11 日木曜日	3 時限	地域医療の理論 「家庭医としての役割」	地域医療学	川 本
6 月 12 日金曜日	3 時限	地域医療の理論 「ライフサイクルと健康」	地域医療学	二 宮
6 月 18 日木曜日	3 時限	地域医療の理論 「患者さんの視点」	地域医療学	熊 木
6 月 19 日金曜日	3 時限	地域医療の理論 「地域医療における面接技法」	地域医療学	二 宮
6 月 25 日木曜日	3 時限	地域医療の理論 「地域医療における解釈モデルの活用」	地域医療学	川 本
6 月 26 日金曜日	3 時限	地域医療の理論 「地域における医療資源の活用」	地域医療学	二 宮
7 月 2 日木曜日	3 時限	地域医療の理論 「EBM と NBM 1 」	地域医療学	川 本
7 月 9 日木曜日	3 時限	地域医療の理論 「EBM と NBM 2 」	地域医療学	川 本
7 月 16 日木曜日	3 時限	地域医療の理論 「世界と日本の地域医療 」 *台風のため休講	地域医療学	川 本
7 月 23 日木曜日	3 時限	地域医療の理論 「臨床判断の基礎」	地域医療学	熊 木

後期課程 場所：基礎 1、3 講義室 15 コマ 5 時限：14:10－15:10 6 時限：15:20－16:20

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
10 月 8 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「生活習慣病と行動変容」	地域医療学	川 本
10 月 15 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「地域医療と連携・チーム医療」	地域医療学	川 本
10 月 22 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「家庭医による禁煙活動」	非常勤講師	加藤（二宮）
10 月 29 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「在宅医療」	地域医療学	川 本
11 月 5 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「高齢者医療と福祉」	非常勤講師	大原（川本）
11 月 12 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「在宅終末期医療」	地域医療学	川 本
11 月 19 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「病院運営と患者ケア」	非常勤講師	宮岡（川本）
11 月 26 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「総合医と専門医の役割」	地域医療学	熊 木
12 月 3 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 1 」	地域医療学	川 本
12 月 10 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「心のケア」	非常勤講師	山岡（川本）
1 月 13 日水曜日	2-3 時限	地域医療の実践 「地域医療と研究」	学外講師	井上（川本）
1 月 14 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「地域医療における課題」	地域医療学	川 本
1 月 21 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「バングラデシュでの医療活動」	非常勤講師	宮川（川本）
1 月 28 日木曜日	5 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 2 」	地域医療学	熊 木
1 月 28 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 3 」	地域医療学	熊 木
2 月 4 日木曜日	6 時限	地域医療への提言 「学生の主張」	地域医療学	川本・熊木・二宮

平成 27 年度 地域医療ワークショップ（地域枠学生対象）

月 日	曜日	内 容
4 月 16 日	木	第 45 回：平成 27 年度 1 年生と顔合せ（地域枠全学年対象）
4 月 30 日	木	第 46 回：（地域枠 2 年生対象）
5 月 7 日	木	第 47 回：（地域枠 2 年生対象）
5 月 21 日	木	第 48 回：（地域枠 1 年生対象）
6 月 18 日	木	第 49 回：地域を視る（地域枠 1 年生対象）
7 月 2 日	木	第 50 回：医局について（地域枠 4 年生対象）
10 月 1 日	木	第 51 回：介護体験実習報告会（地域枠 1 年生対象）
10 月 15 日	木	第 52 回：医局について（地域枠 3 年生対象）
11 月 5 日	木	第 53 回：日本と世界の医療制度（地域枠 2 年生対象）
11 月 12 日	木	第 54 回：地域医療崩壊の処方箋を考える（地域枠 1 年生対象）
12 月 3 日	木	第 55 回：胸部写真を読む（地域枠 3 年生対象）
12 月 17 日	木	第 56 回：プロについて（地域枠 1 年生対象）
28.1 月 21 日	木	第 57 回：地域医療における総合診療活動について（地域枠 2 年生対象）



基礎配属学生の研究成果

【原著】

上本明日香、川本龍一、阿部雅則、楠木智、小原 克彦、三木哲郎

超高齢社会の地域医療に対する医学生の意識調査：愛媛大学医学科1年生と5年生の比較.
日老医誌2015 ; 52 : 48-54.

小糸秀、川本龍一、鈴木萌子、上本明日香、熊木天児、二宮大輔、阿部雅則

地域在住者における主観的健康感に影響する背景因子及び生存率に関する調査
日本PC連合学会誌 2015 ; 38 : 214-220.

【発表】

第 15 回愛媛プライマリ・ケア研究会（2015 年 6 月 27 日、松山市）

えひめ多職種連携ワークショップの報告

上本明日香、鈴木萌子、二宮大輔、熊木天児、川本龍一
「地方医療従事者の身体的・精神的健康と関連する要因に関する調査」

本田遼佑、二宮大輔、熊木天児、川本龍一
「西予市立野村病院における医師と患者間のコミュニケーションに対する意識の差に関する調査」
原 諒真、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会（2015 年 11 月 21-22 日、高松市）

「地方医療従事者の身体的・精神的健康と関連する要因に関する調査」

本田遼佑、柳原千秋、原諒真、原田克己、二宮大輔、熊木天児、川本龍一
「西予市立野村病院における医師と患者間のコミュニケーションに対する意識の差に関する調査」
原諒真、原田克己、本田遼佑、柳原千秋、二宮大輔、熊木天児、川本龍一
「愛媛県在住高齢者の「自分らしい生き方」と主観的幸福感・健康感との関係」
原田克己、本田遼佑、柳原千秋、原諒真、二宮大輔、熊木天児、川本龍一



第5学年臨床実習 地域医療学 班別名簿

平成27年度愛媛大学医学部医学科						
第5学年臨床実習班別名簿						
1班	井上 直弥	○黒田 真由美	○土居 未歩	村上 幹和	渡部 棕	○渡部 遥
2班	○荒井 夏海	榎本 昌人	高橋 雅之	○田窪 衣里那	曾我部 恭成	○屋敷 成美
3班	○浅野 遥奈	伊藤 輝人	○滝山 裕梨	鶴岡 幸太	○鳥居 奈央	
4班	田中 武道	津田 直希	難波 広人	○廣瀬 未優	宮植 和希	○山本 まりあ
5班	楠本 岳久	○田中 千咲	知光 祐希	富山 幸一郎	○堀口 直美	村川 誠太郎
6班	石村 泰裕	○岩本 薫梨	○浮穴 桃子	竹中 僚一	堀川 諭	
7班	井上 悠	澤田 貴虎	中村 友昭	○平野 志歩	○細川 裕子	矢作 竜太
8班	石田 怜	和泉 遼	○岡崎 香織	小川 誉仁	林 龍也	○森 梓
9班	○伊藤 才季	○岡本 唯	宗田 大二郎	西原 聡一朗	藤岡 耀祐	
10班	栗原 渉	○坂本 佳代	○竹内 佳子	浜崎 龍平	福本 弦太	松尾 亮平
11班	大塚 翔	大野 毅	金子 賢太郎	○谷口 絵美	○林田 由伽	三崎 陽太郎
12班	佐藤 真	○杉山 千咲	二宮 鴻介	松下 敬亮	○山川 真季	
13班	○澤井 結花	清家 拓海	田坂 達郎	森内 俊行	山本 岳	○出口 晶子
14班	岡 智哉	沖田 将慶	○土居 千晃	森川 紳之祐	○山本 祐未	鈴木 将史
15班	○明石 倫子	村田 亮洋	山本 貴央	○山本 真有佳	脇田 翔吾	
16班	飯田 尚樹	○菊澤 里佳子	北野 知地	○近藤 真由	首藤 聖弥	藤原 佑太
17班	○泉本 麻耶	○大塚 由理	坂本 裕司	實藤 洋伸	塚本 祥太	森川 友郎
18班	川本 貴康	○楠瀬 祥子	佐柿 司	○善家 菜	多保 康平	舟橋 裕
19班	○石橋 里歩	川本 駿	○高岡 萌美	中村 聡志	堀江 健太	

合計108名(うち女子41名)＜○印は女子を示す。＞



業 績

【原著】

Katoh T, Kawamoto R, Kohara K, Miki T.

Association between Serum Bilirubin and Estimated Glomerular Filtration Rate among Diabetic Patients.

Int Sch Res Notices. 2015; Article ID 480418, 6. [N/A]

Kawamoto R, Kohara K, Katoh T, Kusunoki T, Ohtsuka N, Abe M, Kumagi T, Miki T.

Brachial-ankle pulse wave velocity is a predictor of walking distance in community-dwelling adults.

Aging Clin Exp Res. 2015; 27: 187-193. [1.215]

Kawamoto R, Kohara K, Katoh T, Kusunoki T, Ohtsuka N, Abe M, Kumagi T, Miki T.

Changes in oxidized low-density lipoprotein cholesterol are associated with changes in handgrip strength in Japanese community-dwelling persons.

Endocrine. 2015; 48: 871-877. [3.878]

Kawamoto R, Katoh T, Kohara K, Miki T.

Determinants of change in insulin resistance response to Nordic walking in community-dwelling elderly women.

J Clin Gerontol Geriatr. 2015; 6: 100-105. [N/A]

Kawamoto R, Uemoto A, Ninomiya D, Hasegawa Y, Ohtsuka N, Kusunoki T, Kumagi T, Abe M.

Characteristics of Japanese medical students associated with their intention for rural practice.

Rural Remote Health. 2015; 15: 3112. [0.878]

Kuroda T, Hirooka M, Koizumi M, Ochi H, Hisano Y, Bando K, Matsuura B, Kumagi T, Hiasa Y.

Pancreatic congestion in liver cirrhosis correlates with impaired insulin secretion.

J Gastroenterol. 2015; 50: 683-693. [4.523]

Azemoto N, Kumagi T, Yokota T, Hirooka M, Kuroda T, Koizumi M, Ohno Y, Yamanishi H, Abe M, Onji M, Hiasa Y.

Utility of Contrast-Enhanced Transabdominal Ultrasonography to Diagnose Early Chronic Pancreatitis.

Biomed Res Int. 2015; 2015: 393124. [2.134]

Hatano M, Watanabe J, Kushihata F, Tohyama T, Kuroda T, Koizumi M, Kumagi T, Hisano Y, Sugita A,

Takada Y.

Quantification of pancreatic stiffness on intraoperative ultrasound elastography and evaluation of its relationship with postoperative pancreatic fistula.

Int Surg. 2015;100:.497-502.

[N/A]

Lammers WJ, Hirschfield GM, Corpechot C, Nevens F, Lindor KD, Janssen HL, Floreani A, Ponsioen CY, Mayo MJ, Invernizzi P, Battezzati PM, Parés A, Burroughs AK, Mason AL, Kowdley KV, Kumagi T, Harms MH, Trivedi PJ, Poupon R, Cheung A, Lleo A, Caballeria L, Hansen BE, van Buuren HR; Global PBC Study Group.

Development and Validation of a Scoring System to Predict Outcomes of Patients With Primary Biliary Cirrhosis Receiving Ursodeoxycholic Acid Therapy.

Gastroenterology. 2015; 149: 1804-1812.

[18.187]

Miyake T, Kumagi T, Furukawa S, Hirooka M, Kawasaki K, Koizumi M, Todo Y, Yamamoto S, Abe M, Kitai K, Matsuura B, Hiasa Y.

Short sleep duration reduces the risk of nonalcoholic fatty liver disease onset in men: A community-based longitudinal cohort study.

J Gastroenterol. 2015; 50; 583-589.

[4.523]

Miyake T, Kumagi T, Hirooka M, Furukawa S, Kawasaki K, Koizumi M, Todo Y, Yamamoto S, Nunoi H, Tokumoto Y, Ikeda Y, Abe M, Kitai K, Matsuura B, Hiasa Y.

Significance of exercise in nonalcoholic fatty liver disease in men: a community-based large cross-sectional study.

J Gastroenterol .2015; 50; 230-237.

[4.523]

上本明日香、川本龍一、阿部雅則、楠木智、小原克彦、三木哲郎

超高齢社会の地域医療に対する医学生の意識調査：愛媛大学医学科1年生と5年生の比較.

日老医誌 2015 ; 52 : 48-54.

小糸秀、川本龍一、鈴木萌子、上本明日香、熊木天児、二宮大輔、阿部雅則

地域在住者における主観的健康感に影響する背景因子及び生存率に関する調査

日本PC連合学会誌 2015 ; 38 : 214-220.

【症例報告】

Miyake T, Kumagi T, Furukawa S, Hirooka M, Kawasaki K, Koizumi M, Todo Y, Yamamoto S, Abe M, Kitai K, Matsuura B, Hiasa Y.

Short sleep duration reduces the risk of nonalcoholic fatty liver disease onset in men: A community-based longitudinal cohort study.

J Gastroenterol 2015; 50; 583-589. [4.523]

Miyake T, Kumagi T, Hirooka M, Furukawa S, Kawasaki K, Koizumi M, Todo Y, Yamamoto S, Nunoi H, Tokumoto Y, Ikeda Y, Abe M, Kitai K, Matsuura B, Hiasa Y.

Significance of exercise in nonalcoholic fatty liver disease in men: a community-based large cross-sectional study.

J Gastroenterol 2015; 50; 230-237. [4.523]

Koizumi M, Kumagi T, Hiasa Y.

An unusual cause of abdominal pain.

Gastroenterology. 2015; 148(4): e1-2. [18.187]

Imai Y, Hirooka M, Ochi H, Koizumi Y, Ohno Y, Watanabe T, Tokumoto Y, Kumagi T, Abe M, Hiasa Y.

A case of hepatocellular carcinoma treated by radiofrequency ablation confirming the adjacent major bile duct under hybrid contrast mode through a biliary drainage catheter.

Clin J Gastroenterol 2015; 8: 318-322. [N/A]

Watanabe T, Abe M, Tada F, Aritomo K, Ochi H, Koizumi Y, Tokumoto Y, Hirooka M, Kumagi T, Ikeda Y, Matsuura B, Hiasa Y.

Drug-induced liver Injury with serious multiform exudative erythema following the use of an over-the-counter medication containing ibuprofen.

Intern Med. 2015; 54(4): 395-9. [0.904]

【総説】

川本龍一：超高齢社会に向けての取り組みを学ぶ：地域をケアする.

ジェネラリスト教育コンソーシアム 2015 : 7 : 1-6.

川本龍一：超高齢社会における ICT を活用した運動療法への期待.

愛媛医学 2015 ; 34 : 23-24.

川本龍一：情勢の生活習慣病 4 肥満.

White 2015 ; 3 : 28-34.

【学会発表】

第 26 回日本老年医学会四国地方会（2015 年 2 月 22 日、高知市）

高齢者 2 型糖尿病患者における血清総ビリルビン値の軽度上昇は頸動脈硬化症を抑制する
川本龍一、二宮大輔、長谷川陽一、楠木智、大塚伸之、笠井誉久、阿部雅則

第 112 回 日本内科学会総会・講演会（2015 年 4 月 11 日、京都）

サテライトシンポジウム「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2015 京都」

UDCA 治療経過中に妊娠した原発性硬化性胆管炎の 1 例

井上翔太、熊木天児、小泉光仁、黒田太良、大野芳敬、布井弘明、日浅陽一

再発性逆行性胆管炎を併発した好酸球性硬化性胆管炎に UDCA が奏功した 1 例

小糸秀、熊木天児、小泉光仁、中野直子、重見律子、水上祐治、黒田太良、大野芳敬、
日浅陽一

胆道閉鎖症に対する葛西術後に自己肝で生存中の同胞症例

鈴木萌子、熊木天児、小泉光仁、黒田太良、大野芳敬、日浅陽一

EASL 2015（2015 年 4 月 22 日-26 日、Vienna）

Age, bilirubin and albumin, regardless of sex, are the strongest independent predictors of biochemical response and transplantation-free survival in patients with primary biliary cirrhosis.

Cheung AC, Lammers WJ, Hirschfield GM, Invernizzi P, Mason AL, Ponsioen CY, Floreani A, Corpechot C, Mayo MJ, Pares A, Battezzati PM, Nevens F, Thorburn D, Kowdley KV, Trivedi PJ, Kumagi T, Lleo A, LaRusso N, Boonstra K, Cazzagon N, Franceschet I, Poupon R, Caballeria L, Lindor KD, Hansen BE, Janssen HL, Van Buuren H

Identification of PBC patients in need of additional therapy during the course of UDCA treatment -an international multicenter study.

Lammers WJ, Parés A, Corpechot C, Nevens F, Janssen HL, Ponsioen CY, Hirschfield GM, Floreani A, Mayo MJ, Invernizzi P, P.M. Battezzati, D. Thorburn, A.L. Mason, K.V. Kowdley, N.F. Larusso, L. Caballeria, R. Poupon, A. Cheung, K. Boonstra, P.J. Trivedi, T. Kumagi, Cazzagon N, Franceschet I, Lleo A, Pieri G, Imam MH, Lindor KD, Harms MH, van Buuren HR, Hansen BE: the Global PBC Study Group.

第 101 回 日本消化器病学会総会（2015 年 4 月 23 日-25 日、仙台市）

シンポジウム：門脈圧亢進症の診断と治療 残された課題と対策

パネルディスカッション：生体肝移植後の胆管狭窄に対する内視鏡的治療の現状と課題

小泉光仁、熊木天児、日浅陽一

DDW (Digestive Disease Week) 2015 (2015 年 5 月 16-19 日, Washington, DC, USA)

Low early pancreatic volume reduction predicts relapse in autoimmune pancreatitis patients treated with steroids.

Ohno Y, Kumagi T, Yokota T, Miyata H, Azemoto N, Tanaka Y, Tange K, Murakami H, Inada N, Koizumi M, Kuroda T, Hiasa Y on behalf of the EPOCH Study Group

第 58 回日本糖尿病学会総会 (2015 年 5 月 21-24 日、門司市)

高齢者 2 型糖尿病患者における血清総ビリルビン値の軽度上昇は頸動脈硬化症を抑制する

川本龍一、二宮大輔、長谷川陽一

第 57 回日本老年医学会総会 (2015 年 6 月 12-14 日、東京都)

高齢者における血清総ビリルビン値の軽度上昇は頸動脈硬化症を抑制する

川本龍一、二宮大輔、楠木智、大塚伸之、笠井誉久、阿部雅則

第 6 回日本プライマリ・ケア連合学会 (2015 年 6 月 13-14 日、筑波市)

地域医療実習を通じて形成される地域指向性を評価する尺度の開発

川本龍一、二宮大輔、熊木天児、阿部雅則、長谷川陽一、大塚伸之

地域在住者における主観的健康感の背景と死亡に関する調査

小糸秀、鈴木萌子、上本明日香、二宮大輔、熊木天児、阿部雅則

第 46 回日本脾臓学会大会 (2015 年 6 月 19 日-20 日、名古屋)

自己免疫性脾炎の経過中に発見された脾頭部癌多発肝転移の 1 例

小泉光仁、黒田太良、大野芳敬、熊木天児、日浅陽一

第 114 回消化器内視鏡学会四国支部例会 (2015 年 6 月 20 日-21 日、高松市)

Pig-nose appearance が胆管穿破の診断に有用であった膵管内乳頭粘液性腫瘍の 1 例

小泉光仁、熊木天児、黒田太良、渡辺崇夫、大野芳敬、井上仁、高田泰次、日浅陽一

飲酒または酢酸亜鉛製剤の怠薬が肝胆道系酵素異常の原因と考えられ、その鑑別に腹腔鏡下肝生検が有用であった Wilson 病の 1 例

盛田真、熊木天児、今井祐輔、渡辺崇夫、吉田理、徳本良雄、阿部雅則、日浅陽一

第 103 回日本消化器病学会四国支部例会（2015 年 6 月 20 日-21 日、高松市）

硬化性胆管炎の 1 例：原発性硬化性胆管炎と IgG4 関連硬化性胆管炎との鑑別をめぐって

矢野怜、熊木天児、黒田太良、小泉光仁、大野芳敬、徳本良雄、阿部雅則、池田宜央、日浅陽一

発症前からステロイド治療後までの耐糖能異常の経過を追えた自己免疫性膵炎の 1 例

河内孝範、熊木天児、小泉光仁、黒田太良、大野芳敬、三宅映己、藤堂裕彦、山本晋、古川慎哉、松浦文三、日浅陽一

第 22 回 日本門脈圧亢進症学会総会（2015 年 9 月 10 日-11 日、横浜市）

シンポジウム：門脈圧亢進症の病態と治療-基礎から臨床へ-

門脈圧亢進による膵排水障害およびインスリン分泌機能障害

黒田太良、廣岡昌史、小泉洋平、熊木天児、日浅陽一

第 57 回日本消化器病学会大会（JDDW 2015）

シンポジウム 2：小児の肝疾患 臨床・研究の up to date

胆道閉鎖症に対する葛西術後、自己肝で成人に達した症例の臨床像

熊木天児、横田智行、日浅陽一

第 104 回日本消化器病学会四国支部例会（2015 年 11 月 7 日-8 日、松山市）

亜全胃温存脾臓十二指腸切除術後の非アルコール性脂肪肝炎に対してパンクレリパーゼが有効であった 1 例

檜本洋平、小泉光仁、黒田太良、大野芳敬、渡辺崇夫、徳本良雄、廣岡昌史、阿部雅則、竹下英次、熊木天児、松浦文三、日浅陽一

合同シンポジウム：消化器病診療 Update -消化器疾患・診断・治療の現状と困難例への対応-

肝門部胆管狭窄に対する 6Fr デリバリーシステムを用いた side-by-side マルチステンティングの経験

黒田太良、熊木天児、小泉光仁、大野芳敬、日浅陽一

AASLD 2015（2015 年 11 月 13 日-17 日、Boston）

Did improvement of access to healthcare change the clinical features and long-term outcomes of hepatocellular carcinoma in a suburban area in Japan?

Kumagi T, Uehara T, Ohmoto M, Hiraoka A, Miyake T, Tange K, Toshimori A, Horiike N, Onji M

Elevation of alkaline phosphatase during follow-up is an early predictor of hyperbilirubinaemia and of

clinical endpoints in primary biliary cirrhosis – an international study.

Lammers WJ, van Buuren HR, Ponsioen CY, Janssen HL, Floreani A, Hirschfield G, Corpechot C, Mayo MJ, Invernizzi P, Battezzati PM, Pares A, Nevens F, Thorburn D, Mason A, Kowdley KV, Cheung AC, Kumagi T, Trivedi PJ, Poupon R, Lleo A, Caballeria L, Lindor KD, Harms MH, Hansen BE

第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会（2015 年 11 月 21-22 日、高松市）

医学生における医師不足地域での勤務に関する調査

川本 龍一、二宮大輔、大塚伸之、笠井誉久、楠木智、長谷川陽一、熊木天児、阿部雅則

地方医療従事者の身体的・精神的健康と関連する要因に関する調査」

本田遼佑、柳原千秋、原諒真、原田克己、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

西予市立野村病院における医師と患者間のコミュニケーションに対する意識の差に関する調査

原諒真、原田克己、本田遼佑、柳原千秋、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

愛媛県在住高齢者の「自分らしい生き方」と主観的幸福感・健康感との関係

原田克己、本田遼佑、柳原千秋、原諒真、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

【研究会】

第 10 回愛媛免疫疾患研究会（2015 年 2 月 22 日、松山市）

UDCA 治療経過中に妊娠し、良好な経過をたどった原発性硬化性胆管炎の 1 例

井上翔太、熊木天児、小泉光仁、黒田太良、大野芳敬、布井弘明、日浅陽一

Good Maternal and Fetal Outcomes for Pregnant Women With Primary Biliary Cirrhosis

～原発性胆汁性肝硬変と妊娠：トロント大学での経験～

熊木天児

香川県立中央病院臨床研修医スキルアップセミナー（2015 年 4 月 13 日、高松市）

特別講演："A case is a case but not just a case." ～ 臨床推論から導かれる臨床研究の醍醐味 ～

熊木天児

第 15 回愛媛プライマリ・ケア研究会（2015 年 6 月 27 日、松山市）

えひめ多職種連携ワークショップの報告

上本明日香、鈴木萌子、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

地方医療従事者の身体的・精神的健康と関連する要因に関する調査

本田遼佑、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

西予市立野村病院における医師と患者間のコミュニケーションに対する意識の差に関する調査

原 諒真、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

第 64 回愛媛肝胆膵研究会（2015 年 8 月 22 日、松山市）

愛媛県における自己免疫性膵炎の現状と課題 再燃予測因子の検討

大野芳敬、熊木天児、横田智行、宮田英樹、畔元 信明、田中良憲、丹下和洋、
村上英広、稲田暢、小泉光仁、黒田太良、日浅陽一

【講演】

広島大学特別講義（2015 年 1 月 9 日、広島市）

地域医療とは

川本龍一

いきいき健康大学出張教室（2015 年 1 月 13 日、西予市）

高血圧予防

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2015 年 2 月 10 日、西予市）

終末期の在り方

川本龍一

いきいき健康大学出張教室（2015 年 2 月 13 日、西予市）

糖尿病予防

川本龍一

ウインタースクール（2015 年 2 月 28 日、今治市）

地域医療と研究

川本龍一

第 5 回中四国地域医療フォーラム（2015 年 3 月 6-7 日、高知市）

地域医療学講座の活動と課題

川本龍一、熊木天児、二宮大輔

生きがいデイサービス事業（2015 年 3 月 9 日、西予市）

終末期の在り方

川本龍一

新居浜在宅医療研究会（2015 年 3 月 28 日、新居浜市）

超高齢社会における在宅医療の役割

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2015 年 6 月 16 日、西予市）

終末期の在り方

川本龍一

いきいき健康大学出張教室（2015 年 6 月 22 日、西予市）

超高齢社会に期待される地域医療への取り組みー地域におけるサルコペニア予防ー

川本龍一

西予市立野村病院看護師研究会（2015 年 6 月 29 日、西予市）

看護における EBM と NBM

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2015 年 7 月 14 日、西予市）

終末期の在り方

川本龍一

第 14 回瀬戸内国際臨床試験カンファレンス（2015 年 9 月 27 日、松山市）

地域医療における polypharmacy の課題ー総合診療医の立場からー

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2015 年 9 月 29 日、西予市）

楽しく老いる街づくり「生きて逝く」

川本龍一

Diabetes and Oncology Meeting in Uwajima. （2015 年 10 月 5 日、宇和島市）

Special lecture : Diabetes and obesity as an independent risk factor in cancer development
- a special focus on pancreatic cancer -

Teru Kumagi

いきいき健康大学出張教室（2015 年 10 月 21 日、西予市）

糖尿病と高血圧

川本龍一

サノフィ株式会社社内研修（2015 年 10 月 23 日、松山市）

超高齢社会に期待される地域医療への取り組みー地域におけるサルコペニア予防ー

川本龍一

第 5 回愛媛大学医学部附属病院地域医療再生セミナー（2015 年 11 月 13 日、東温市）

地域医療学講座の活動報告ー総合診療専門医養成 愛プログラムー

川本龍一、熊木天児、二宮大輔

第 4 回お稲の会（2015 年 11 月 15 日、西予市）

楽しく老いる街づくり 「いきいきと生きて逝く」

川本龍一

生きがいデイサービス事業（2015 年 11 月 24 日、西予市）

健康寿命と肺炎予防ー肺炎球菌ワクチンのすすめ

二宮大輔

第 1 回今治周桑消化器・代謝講演会（2015 年 11 月 27 日、今治市）

特別講演：膵癌診断ー最近の話題ー

熊木天児

いきいき健康大学出張教室（2015 年 11 月 27 日、西予市）

糖尿病を予防して大事な脳・心臓・腎臓を守ろう

川本龍一

【座長】

川本龍一

第 20 回南予糖尿病研究会（2015 年 2 月 18 日、宇和島市）

「糖尿病と栄養ー大学病院における栄養管理の実際ー」

愛媛大学附属病院 栄養部部長：利光 久美子 先生

フォシーガ発売一周年記念講演会（2015 年 5 月 25 日、松山市）

「SGLT2 阻害薬への期待と注意点」

京都府立医科大学 内分泌・代謝内科学准教授：福井 道明 先生

ルセフィー講演会（2015 年 6 月 10 日、松山市）

「糖尿病治療の新たな展開－新薬をどのように活用するか－」

東京医科大学 糖尿病・代謝・内分泌講座教授：小田原 雅人 先生

第 15 回愛媛プライマリ・ケア研究会（2015 年 6 月 27 日、松山市）

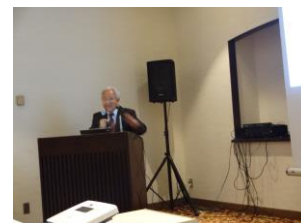
「実地医家のための臨床推論～診断のプロセスとエラー～」

自治医科大学 地域医療学センター 総合診療部門 教授：松村 正巳 先生

自治医大勉強会 in2015（2015 年 7 月 4 日、松山市）

「CKD に伴う高尿酸血症の最近の話題」

JCHO うつのみや病院院長：草野 英二 先生



平成 26 年度愛媛県主催 地域医療夏季サマーセミナー（2015 年 8 月 22 日、東温市）

「医療から見たまちづくり－各参加市町の医療とまち－」

自治医科大学と愛媛大学地域枠学生

第 11 回愛媛軽症糖尿病懇話会（2015 年 10 月 28 日、松山市）

「糖尿病性腎症の診断と治療－新たな展望－」

岡山大学病院新医療研究開発センター教授：四方 賢一 先生

講座関連の研究費

【研究費】

代表

財団法人地域社会振興財団

山間地域における生活習慣病に関する研究（2014 年 4 月～現在）

川本龍一、大塚伸之、二宮大輔、熊木天児

平成 27 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究 C）

地域志向性を評価する尺度の検証と活用に関する調査研究

川本龍一、二宮大輔、熊木天児

平成 27 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究 C）

門脈圧亢進症による脾血流動態異常が脾内分泌障害および脾外内分泌障害に及ぼす影響

熊木天児

平成 27 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・若手研究 B）

肝癌進展に及ぼす B 細胞活性化因子の作用

小泉光仁、熊木天児：

協力

高齢者高血圧コホート研究（2004 年 10 月～現在）

川本龍一

Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective Study（2008 年 6 月～現在）

川本龍一

EWTOPIA 75 試験（2010 年 4 月～現在）

川本龍一

そ の 他

【教育活動】

地域医療学講座西予市地域サテライトセンター（西予市野村病院）での実績

- 初期研修医（地域医療）2015 年度 18 名
- 後期研修医 2015 年度（地域医療・総合医後期研修コース）1 名

【授賞】

- 愛媛大学医学部医学科 Best Teacher 賞（熊木）

【委員会活動】

学内

- 卒後臨床研修管理委員会（川本）：2010 年度から
- 地域医療支援センター組織運営委員会（川本）：2011 年度から
- 医学専攻教務委員会（川本）：2011 年度から
- 地域医療推進委員会（川本）：2012 年度から
- 大学院入試作問委員会（川本）：2015 年度から

学外

- 日本プライマリ・ケア連合学会評議員会（川本）：1999 年度から
- 日本老年医学会代議員会（川本）：1999 年度から
- 愛媛県へき地医療支援計画策定等会議委員会（川本）：2005 年度から
- 訪問看護ステーション東宇和運営協議会（川本）：2005 年度から
- 愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2007 年度から
- 日本内科学会四国支部評議員会（川本）：2009 年度から
- 西予市立野村病院運営委員会（川本）：2009 年度から
- 松山赤十字病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011 年度から
- 済生会松山病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011 年度から
- 愛媛県地域医療支援センター運営委員会医師確保支援部会（川本）：2014 年度から

2015 年 2 月 29 日 愛媛新聞

2015 年 10 月 25 日 愛媛新聞

愛

明治25年2月29日第3報新報愛媛新聞

★10版

検証 第2の「芽出し」

15年度県当初予算案

「この地域は、特に療を介護、福祉との連
 少子高齢化が進んでい 携を要す。在宅医療に
 の。10年後の県内の社 も取り組む。複数の病
 会構想そのものだ。 まな、課題を議論する
 高齢率38・51％と、川本教授は「総合 進取医療」を位置
 いう西予市。10のつ 診療の大切さを学ん 10年後の存方を示す
 ち約46が65歳以上と いう。この思いを 地域医療構想」を策
 う計算になる。

県では2009年、愛 防へ体操や健康教育 代が先見据え、構想の
 座を開設。地域ササ 15年度の県当初予算 年代を目標として、10
 村病院では愛媛大学 案で、寄付講座といっ 回復期病棟の必要性
 院の川本龍一教授55 た地域医療の充実に関 回診に伴う短期
 が医学部生を指導し、 費は約38億円。新たに 病棟の需要低下から
 内科診療を担当。 「卒のうちに、 小児・周産期医療の講 想定される。

問題意識を持つても 座を開設するための一 方、県は預木規制
 らいた」と近江の老 880万円も計され 先行する可能性を危
 人保護施設を訪ね、医 ている。

川本龍一教授の指導で実習する愛媛大
 医学部生と中央から18日、西予市村町野村

院の地域医療支援セ
 ンターは地域医療に
 携わる医師の専門医
 資格の取得支援、医
 師不足について分析
 人口10万人に対する
 県内の医師数は全国
 平均以下だが、松山を
 除く地域は均等を下
 回る。

セターが独自に実
 施し生な医療機関へ
 の調査で内科や外科
 小児科、産科の医
 師を求めるとが中心。
 特定の地域、診療科へ
 の偏在が続く。

地域医療構想は、今
 後の県地域保健医療計
 画に影響するだけに、
 地域の実情を踏まえ

を基に、医療圏と、 護の連携へのニーズを
 の医師確保策に加え、 分析し、構想に反映さ
 がんや期間別対策、災 さい考えた。

愛媛大医学部付属病

「愛媛しと、在りては、
 出せるが、きめ細かな
 協議が求められ、
 長谷川修介

2015 年 11 月 1 日 広報せいよ

[illegible][illegible]

2015 年 11 月 13 日 愛媛新聞

地域医療情報共有進めて

講演や全体討論
110人理解深める
愛媛大医学部セミナー

地域医療の充実を目指し
県内の病院や行政関係者が
集まる第5回「地域医療再
生セミナー」が13日、東温
市志津川の愛媛大医学部で
あり、約110人が同大の
教授6人の講演や全体討論
を通じて意見交換した。同医
学部付属病院地域医療支援
センターが主催した。

久門良明教授（地域医療
再生学）は、四国中央市の
病院で脳卒中などの手術の
レベルアップに取り組み、

3D画像を用いた術前シ
ミュレーションや血管の裏
側を内視鏡で見通す手術
支援システムなどを充実さ
せた実績を紹介。地域課題
として、患者の退院後、
病院と介護施設やかかりつ
け医らとの診療情報共有
が進んでいない点を挙げ
た。

檀垣高史教授（地域小児
周産期学）は、県内の小
児救急医療体制について、
西条、新居浜、宇摩の東予
では「入院や手術が必要
な2次救急は圏域を越えた受
け入れができており、1次
救急でも広域化を目指す」
と説明。交通が不便な南予

では、「地域完結型医療が必
要」と指摘し、地域の病院
同士の情報交換や人的支
援、交流を強化する必要性
を訴えた。（正岡万弥）

地域医療の充実や発展に向
け県内の病院や行政関係者
らが意見交換したセミナー
ら13日午後、東温市志津川



